

## TCFD対照表

掲載資料： [アンリツサステナビリティレポート2022](#)

※詳細は、上記「アンリツサステナビリティレポート2022」の掲載ページをご覧ください。

	推奨開示項目	開示内容	掲載ページ
ガバナンス	気候関連のリスクおよび機会に係る組織のガバナンスを開示する		
	a. 気候関連のリスク及び機会についての取締役会による監視体制の説明をする	気候変動に関する取り組みの推進は、アンリツの取締役会の監督の下、グループCEOおよびCFOが責任を負っています。気候変動関連のリスク・機会の管理は、グループ全体で各種リスクを総合的に管理するリスクマネジメント体制に組み込まれ、環境総括役員（現在は、社長・グループCEO）が管理責任者としての責務を負っています。 環境総括役員はアンリツグループの環境戦略を担う環境・品質推進部を所管するとともに、国内グループにおける環境管理委員会の委員長、海外グループにおけるグローバル環境管理会議の議長を務め、リスク・機会をグローバルに評価・管理しています。また、環境総括役員が経営戦略会議および取締役会に、年間を通したリスク・機会のマネジメントサイクルの結果を定期的に報告し、経営層より適宜必要な指示を受けています。	32
戦略	b. 気候関連のリスク及び機会を評価・管理する上での経営者の役割を説明する		
	気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス・戦略・財務計画への実際の及び潜在的な影響を、重要な場合は開示する		
	a. 組織が選別した、短期・中期・長期の気候変動のリスク及び機会を説明する	アンリツは、1.5°Cシナリオと4°Cシナリオをベースとした気候変動に関するリスク・機会を分析しています。短期（1年）・中期（3年）・長期（～30年）でリスク・機会を抽出し、その発生の可能性と影響度から取り組むべき重要なリスク・機会を特定しました。その結果、両シナリオ分析において、規制強化の影響や一部で物理的な影響を受けることが判明し、対策を検討しました。	32-33
b. 気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス・戦略・財務計画に及ぼす影響を説明する	アンリツは、気候変動を経営戦略上の重要課題と位置づけ、バリューチェーン全体に与える影響を含めた事業戦略および財務への影響を考慮した移行計画を策定し、SBT（Science Based Targets）としての承認も得ています。削減目標の達成に向け、自ら再生可能エネルギー設備を導入して発電し、自社消費する「Anritsu Climate Change Action PGRE 30」の策定と実行、取引先さまとの温室効果ガス削減のための協働、製品アセスメントを通じた環境配慮型製品（省エネ製品）、エネルギー利用効率の改善に寄与する製品の開発・販売などに取り組んでいます。これらの取り組みは、温室効果ガスの削減に寄与し、気候変動の緩和に直結すると考えています。また、気候変動の影響による自然災害の増加・激甚化に備えた生産体制の構築や、自然災害の被害最小化に寄与する製品の開発・販売体制強化を進めています。	32-33	
c. 2°C以下シナリオを含む様々な気候関連シナリオに基づく検討を踏まえ、組織の戦略のレジリエンスについて説明する			
リスク管理	気候関連のリスクについて組織がどのように選別・管理・評価しているかについて開示する		
	a. 組織が気候関連のリスクを選別・評価するプロセスを説明する	アンリツは、気候変動リスク・機会を環境戦略に関する中期経営計画「GLP 環境イニシアチブ」で管理しています。環境総括役員は「GLP環境イニシアチブ」の中で、各部門やグループ会社ごとに毎年行う環境影響評価の結果や、環境管理委員会・グローバル環境会議などで議題に挙げられた事項から気候変動に関連するリスク・機会を収集し、法規制や社会の動向に照らして事業に与える影響を分析しています。その結果から重要なリスク・機会を特定し、対策や取り組みを決定します。	34
	b. 組織が気候関連のリスクを管理するプロセスを説明する	「GLP環境イニシアチブ」は、毎年度レビューを受けて各リスク・機会の取り組みの進捗が確認されます。必要に応じて再評価や再検討を行い、経営戦略会議および取締役会で承認されます。	34
c. 組織が気候関連リスクを識別・評価・管理するプロセスが組織の総合的リスク管理においてどのように統合されるかについて説明する	気候変動リスク・機会はグループ全体で各種リスクを総合的に管理するリスクマネジメント体制に統合され、監督されます。	34	
指標と目標	気候関連のリスク及び機会を評価・管理する際に使用する指標と目標を、重要な場合は開示する		
	a. 組織が、自らの戦略とリスク管理プロセスに即し、気候関連のリスク及び機会を評価する際に用いる指標を開示する	・ Scope1+2：2030年度までにアンリツグループの温室効果ガス排出量を2015年度比で30%削減する ・ Scope1+2：2050年度までにアンリツグループの温室効果ガス排出量を2015年度比で60%削減する ・ Scope3：2030年度までにアンリツグループの購入した製品サービスおよび販売した製品を使用することによる温室効果ガス排出量を2018年度比で30%削減する	34
	b. Scope1, Scope2及び該当するScope3のGHGについて開示する		
c. 組織が気候関連リスク及び機会を管理するために用いる目標、及び目標に対する実績について説明する	2021年度進捗 ・ Scope1+2：2015年度比で17.7%削減しました。 ・ Scope3：2018年度比で14.7%削減しました。	34	